北海道経済連合会　副会長
関　　博之
岩田地崎建設㈱
代表取締役副社長

近くなる東北地方

現在私は岩田地崎建設株式会社にお世話になっていますが、元々は公務員出身で、国土交通省に統合された旧北海道開発庁の出です。公務員時代は土木技術の技官として奉職してまいりましたが、主に河川系の分野で仕事をさせていただきました。

2001年に国土交通省に統合されたのは、建設省、運輸省、国土庁と北海道開発庁の４省庁で、統合後も職員の活動は元の組織の範囲内での動きが主でした。そのような中で、私は２度旧建設省のポストを経験させていただきました。

２度とも東北地方での仕事でしたが、岩手県盛岡市と宮城県仙台市で勤務させていただきました。

それまでの東北地方と私とのつながりは、父方の祖先が宮城県の出身だったくらいで、この勤務以前にはほとんどありませんでした。この２度の勤務で私はすっかり東北地方のファンになってしまいました。今から考えると、私の個人的な感想ですけれども東北地方の中でも暮らしやすく魅力的な街である盛岡と仙台での生活だったことが引き付けられた理由の一つかも知れません。

北海道は確かに自然が豊かですが、東北地方も負けず劣らず自然が豊富ですし、北海道との違いは何と言っても歴史的な事柄が東北地方には豊富にあることです。

歴史に関することでまず驚いたのが、盛岡市内に平安時代の役である前九年の役にちなんだ前九年町という町名があることでした。さらに、この役で源頼義に成敗された安倍氏の安倍舘（あべたて）町がその前九年町のそばにあることでした。

当時の私の仕事に関しても、藤原清衡、基衡、秀衡の藤原三代で有名な平泉町での遊水地建設で、多くの遺跡群の発掘に関わりました。源義経や弁慶が最期を遂げたといわれる「衣川の戦い」の衣川の改修事業にも携わりました。

この遊水地事業は一関遊水地建設事業で、奥州平泉町の北上川で行われていたものです。遊水地建設に伴って築造される堤防予定ルートの下に奥州藤原三代の政庁であった柳之御所遺跡の存在が確認され、堤防ルートと国道４号バイパスのルートを川側に変更して遺跡を守りました。

また、衣川の改修事業においては、ここでも堤防予定ルートの下に秀衡の母の居館であったといわれる接待館遺跡（せったいだていせき）の存在が確認されて堤防予定ルートを変更しています。

平泉と言えば中尊寺金色堂で有名ですが、周辺には奥州藤原氏に因んだ遺跡が多数存

在していて、まさに歴史の宝庫という感じがします。

元来私は歴史好きですから、東北地方の歴史の奥深さに惹かれ、すっかり東北好きになってしまったわけです。

そんな東北地方ですが、新幹線が繋がれば札幌から仙台まで最短でわずか２時間26分で行けるようになります。盛岡まではこれも最短で１時間46分です。そうなれば、行こうと思えば日帰りでも札幌から東北地方に行けるようになります。北海道経済連合会が要望に挙げられている第二青函トンネルが実現されれば、その時間はさらに短縮されるでしょう。

一日も早く新幹線の延伸が実現されることを望むものですが、それにより北海道と東北の交流がいっそう活発になり、お互いの地域の活性化につながっていくことを強く願うものです。また、既に行われていることとは思いますが、北海道経済連合会、東北経済連合会におかれては、新幹線の延伸を見越して、交流の活性化を助長するための取り組みを今から進めておいてはいかがでしょうか。

それぞれの地域の魅力を大いにアピールしあい、それぞれの地域の方々を引き付けあうことができれば、さらに活性化が強まるものと信じるものです。

修験道で有名な山形県の出羽三山や白虎隊で有名な福島県会津若松鶴ヶ城までも、北海道から陸続きであっという間に行けるようになります。

一代前の中尊寺金色堂覆堂（鞘堂とも言われる）内部の様子。右下写真はその外観。
金色堂を風雪から守るため金色堂を覆うように1288年に鎌倉幕府によって建てられたといわれる。簡素な覆い屋根から始まり、この写真の形になったのは室町時代と伝えられる。
現在は金色堂の北西80mほどのところに移設保存されている。国の重要文化財。
中尊寺というと金色堂に目を奪われがちだが、このような地味な歴史遺構もたくさん残されている。
現在の覆堂は鉄筋コンクリート造で、1965年に完成。金色堂はその内部でさらにガラスケースで覆われていて、写真撮影は禁止されている。
写真は中尊寺ホームページならびに岩手の文化情報大辞典より。

羽黒山五重塔
出羽三山の一つ羽黒山の山麓に立つ塔。
平安時代の中期、平将門の創建と伝えられる。
現在の塔は1372年に再建されたもので国宝に指定されている。
写真は2014年筆者撮影。